



学校だより

新潟市立中之口東小学校 2025. 6. 27
第387号 児童数110名
ホームページ
<https://www.kiranico.jp/>



学校は、分かるようになったりできるようになったりするところ

校長 小森 康貴

私がまだ教師になりたてのころの苦い経験です。

体育の授業でマット運動をしました。6回（週3回×2週間）ほど行ったと思います。「自分で挑戦したい技を決めて練習しよう」と投げかけ、子どもたちは、とても楽しそうに練習に取り組んでいました。最後のマット運動の授業となりました。私は、子どもたちができるようになった技をチェックしました。そして、その結果に愕然としました。新しい技ができるようになった子どもが一人もいなかったのです。

振り返ると、私は、新しい技ができるようになるために、的確なアドバイスをしたり、練習の場を工夫したりといった手立てをほぼ行わず、楽しそうに練習している子どもを見て満足していただけでした。それではできるようになるわけがありません。その苦い経験から、それ以降は、子どもができるようになることにこだわり、「『小さなできた』を積み重ねる」をモットーに体育授業に取り組んできました。

このモットーは、体育だけに限ったことではありません。他の教科も同様に、1時間の授業で、今まで分からなかったことが分かったり、できなかったことができるようになったりしなければいけません。学校は分かるようになったりできるようになったりするところなのです。このことを常に意識して授業をするように、職員には話をしています。

1時間の授業で何が分かるようになったのか、何ができるようになったのか、子ども自身が意識することも大切です。学習参観の際に、担任が黒板に「課題」や「まとめ」を書いているところを見たことはないでしょうか。「課題」とは、1時間の授業で何が分かる（できる）ようになるのか意識させることです。「まとめ」とは、1時間の授業で何が分かったか（できたか）意識させることです。さらに、分かったこと（できたこと）を意識させるために振り返りを書くこともあります。これらは、学力向上にも有効であるという考えから、新潟市の学校で長年取り組まれています。

子ども自身が、分かるようになったりできるようになったりしたことを意識することは、自己肯定感の向上にも関係します。分かるようになったりできるようになったりしたことを意識するということは、自分の成長を実感することです。大人でも、自分の成長を実感すれば嬉しい気持ちになります。子どもも同様で、日々、自分が成長する喜びを実感すれば自己肯定感は向上するはずです。

保護者の皆さんにお願いします。「今日はどんなことが分かる（できる）ようになった？」とお子さんに聞いてください。そして、お子さんが「〇〇が分かる（できる）ようになった」と答えたら大いに褒めてあげてください。よろしくお願いします。